

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
 2018年度 共同研究成果報告書〔研究設備・資源活用型〕

2019年 4月 19日 提出

1. 研究課題名	
「国立音楽大学附属図書館所蔵『竹内道敬文庫』デジタル・アーカイブの公開と研究活用」 (英文標記: Research for the publication and utilization of digital archive of “The Takeuchi Michitaka Collection”, belong to Kunitachi College of Music Library)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
古川 聡(ふるかわ さとし)	国立音楽大学附属図書館 館長
3. 研究分担者 (合計: 名)	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
赤間 亮(あかまりょう)	立命館アート・リサーチセンター 教授
柄田明美(つかだあけみ)	国立音楽大学附属図書館 主任司書
高橋京子(たかはしきょうこ)	国立音楽大学附属図書館 司書
4. 研究課題の概要	
<p>竹内道敬文庫は、近世邦楽研究者で国立音楽大学でも教鞭を取っていた竹内道敬先生からご寄贈頂いたコレクション。内容は、江戸時代以降の歌舞伎や三味線音楽に関わる錦絵や正本、番付など総点数 12,000 以上に及ぶものである。</p> <p>当館では今までこれら資料を整理し、冊子目録を刊行してきたが、資料のより一層の活用と当館からの情報発信をめざし、錦絵約 1,500 点を完全デジタル化して、画像を目録情報とともにアーカイブとして公開した。</p> <p>アーカイブ構築にあたっては、資料の高品質のデジタル化、及びアーカイブ公開のためのプラットフォームとデータの維持管理が大きな課題であり、貴大学の「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」事業との連携が不可欠であると考えている。</p>	
5. 研究成果の概要	
<p>かねてより立命館大学アート・リサーチセンターとの共同研究により、アーカイブの構築と公開を進めてきたが、2018年3月に『竹内道敬文庫デジタル・アーカイブー錦絵の部』として公開することができた。</p> <p>従来当該コレクションは、冊子目録として整理・刊行されており、一部資料はデジタル化されていたが、ごく一部であった。今回のアーカイブ公開により、コレクションの鮮明な画像と詳細な目録データを研究者が共有できるようになったことが大きな成果である。また、本学としても、独自の研究リソースの公開・発信は大変重要である。コレクションの公開は、寄贈者である竹内道敬氏の強い願いでもあり、これを叶えることができたことは、当館としても大変意義深いと考えている。</p> <p>今後、錦絵以外の番付や正本等についても、立命館大学アート・リサーチセンターとの連携のもと、デジタル化とアーカイブ化を進め、公開していきたい。</p>	